

新しい時代を拓く大切なものの見方、考え方を提言する「くだけけ」

人生の宿題

和田重良

去年11月に皆様にお配りさせていただいた「こころの芯を耕す」の冊子はとても好評をいただき皆様から次々といろいろな感想が届きました。ありがとうございます。

中でも「教育って、こんなにあなたかいものだったんだ」というご感想はともうれしかったです。この冊子が生み出されたのはYMK「こころの教育シンポジウム」からです。このシンポジウムには大学の先生がかかわって下さっていますが、「教育」という

ものの根本はまさにこういうテーマなのだと思われ、ぜひ続きの「第四回YMKこころの教育シンポジウム」を計画したいと思っています。

◆人生は「宿題」できている

最近、「人生の宿題」というつづりを発行させていただきました。このお題はNHKの金光寿郎さんから頂いたと思います。

子ども相手に活動して来たばかりにと

って、子どもに伝えるべきものは「人生には宿題つてもものがある」ということだろうと思っています。「人生の宿題」は毎日学校で出される宿題とは違って、そう簡単には答えの得られるものではありません。

なぜ勉強するのか？の問いは人間にとって「なぜ生きるのか？」の問いと同じだと思います。

不思議なことに人間は一生という人生の中の「今」と「自分」と「ここ」という所を生きているのですが、そこを「あんしんして生き切る」ことができないように雑念や妄想が出て来て振り回されるのです。だからその根本を問う「宿題」をあたためることが大切なことなのです。

鶏だって卵をヒナに孵すのに21日間ジツとあたためなければなりません。「人生の宿題」もあたためる必要があるのです

◆「宿題」のヒント 「あんしん」

人は皆、この宿題を解くために、何が「あんしん」なのだろう？ということヒントとしています。

ころがそのヒントが複雑多岐に渡っていて、それが本当のヒントなのかはなかなかわからないのです。

「教育」という内容を一つとってみても「あんしん」の役に立つだろうと思つて、「いい成績」をあげて「いい学校」に行けばきっと「いい就職」ができて「いい思い」のできる一生が過ごせるだろうと思つたのです。でも実はそんなものだけ手に入れたところまでいつまでたっても「不安」と隣り合わせです。

「教育」ってほんとうは「その子らしい成長」を願うところからの出発なのですから、「いい学校」は「その子らしさ」の延長上になければならないのです。

と、言うように人間は「しあわせ」のために外側の条件を整えることが「あんしん」なのだと思ひ込み、そこにせつせと努力して、又は努力もしないで、条件だけ整えようとしてもほんとの「あんしん」は生まれてこないようにできているのです。

◆誰も知らない答え

と言うわけで、「人生の宿題」の究極のテーマは

「自分は一体どこから来てどこへ行くか」として「自分」という問いの答えなのですが、それを誰もが知らずに生きているのです。でも、生きている意味を知りたいがために、いろいろ勉強して知識を得ていきます。

この事実を知るのは人間にとってはまた楽しいことなので、どの人もいろいろと探究して生きるのです。人によって様々な分野に出会うわけですが、どの分野から入っても行き着く先は同じです。仕事をしていようといなかろうと、勉強していようといなかろうと、人は皆同じ「宿題」をあたためて生きているのです。

誰もその答えに出会わずにヒントもなしに「あんしん」を求めようとしていくのです。

◆そして、もう一つの進化

横浜のあんしん会ではいつも「頭の一時預け」を宿題にしています。

人間にとって頭の存在は何の疑問も浮かばない確かな存在かと言うと、そうはうまくできていないの

です。「判断力」という所で間違いを犯すのです。ですから、その頭の所で「もう一つ進化」をするために悩んだり苦しんだりするように仕組まれているのです。

最近発行した「人生の宿題」(拙著)というつづりは「日めくり」としても利用できるように作られています。でも、できたら「山を掃く」というページから「有法」というページまでを一気に読んでいただきたいのです。

毎日読み通さなくてもいいですから、時々全部を読み通してみてください。きっと「人生の宿題」を持つこと、そしてそれをあたためることの意味をわかっていただけるのではないかと思います。

(くだけけ生活つづり)

人生の宿題

1,000+税



お祝い、ごあいさつ等にもどうぞ